

8 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無
 - (3) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したいと思う活動
-

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

問37 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

■「ごみと資源の分別」が8割台半ばで、「不要なレジ袋を断る」が7割台半ば超え

ア 単純集計・経年比較／環境のために心がけていること

(ア) 環境のために心がけていることの上位をみると、以下のとおりとなっている。

- ① 「ごみと資源の分別を実行している」(84.7%)
- ② 「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(77.1%)
- ③ 「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(56.3%)
- ④ 「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(54.5%)
- ⑤ 「外食時に食べられる分だけ注文する」(51.0%)

(イ) 経年でみると、上位4項目は前年と順位が変わらないが、今回調査で新設された「外食時に食べられる分だけ注文する」が第5位となっている。前回調査と比較可能な項目での増減をみてみると、「ごみと資源の分別を実行している」(前回調査87.7%)が3.0ポイント、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(前回調査79.3%)が2.2ポイントそれぞれ減少し、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(前回調査48.2%)が6.3ポイント増加している。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

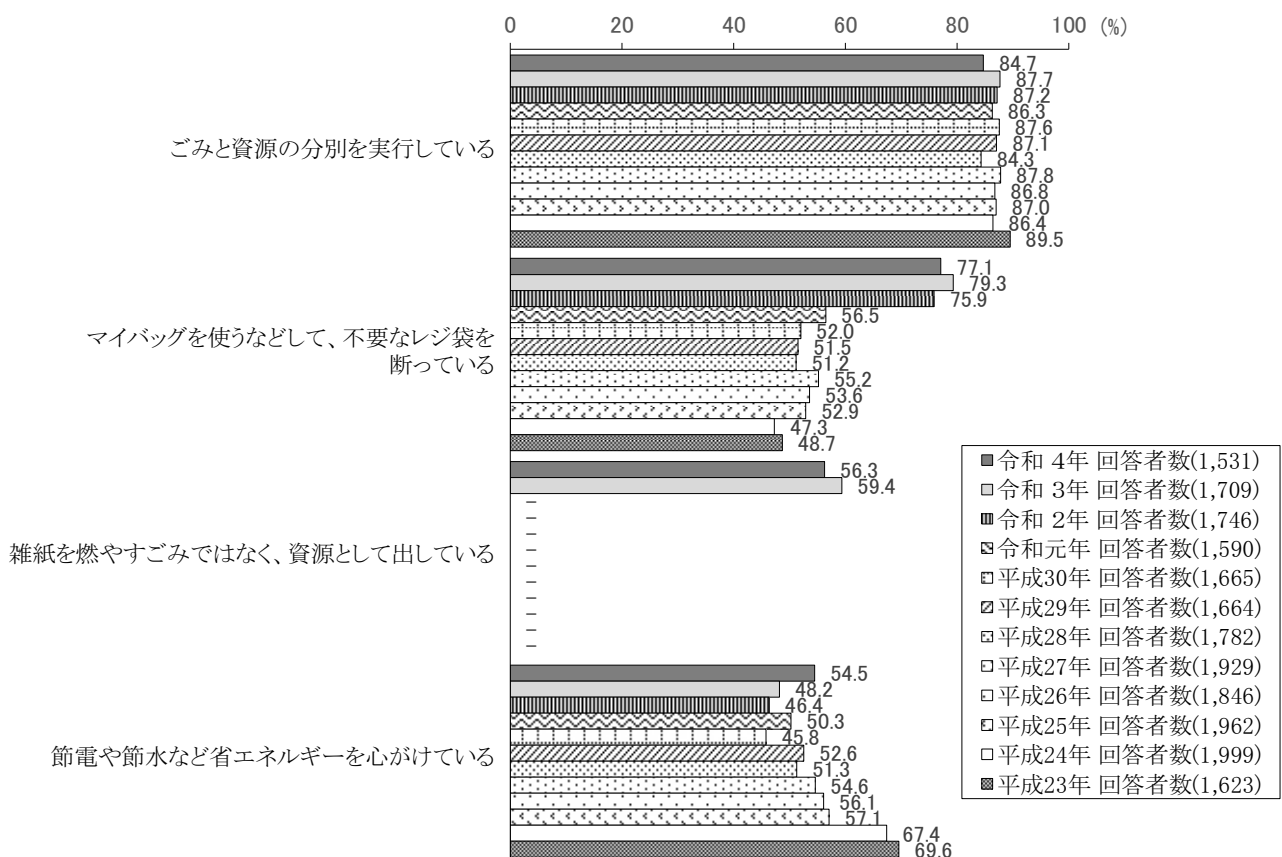


図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること

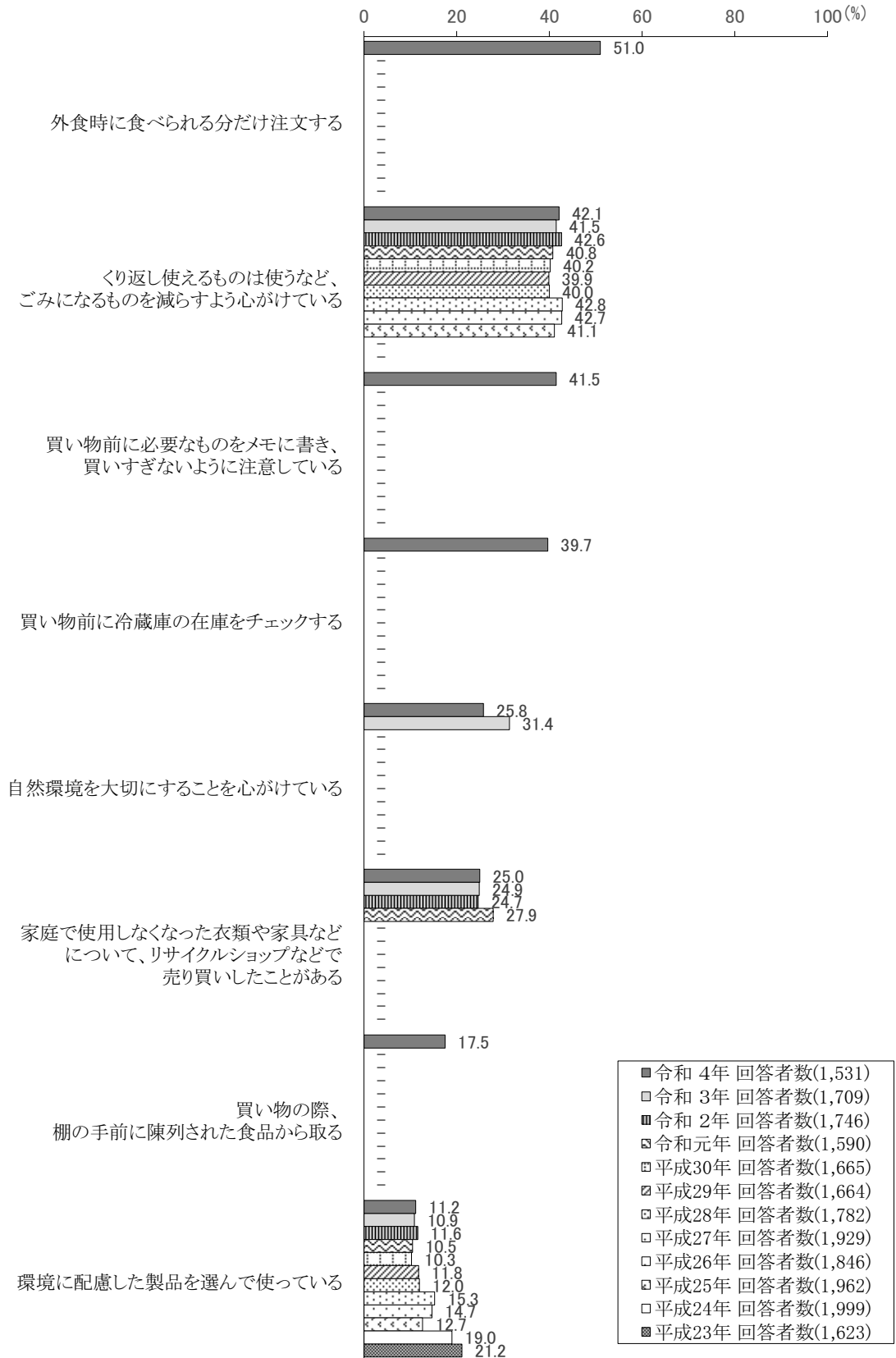
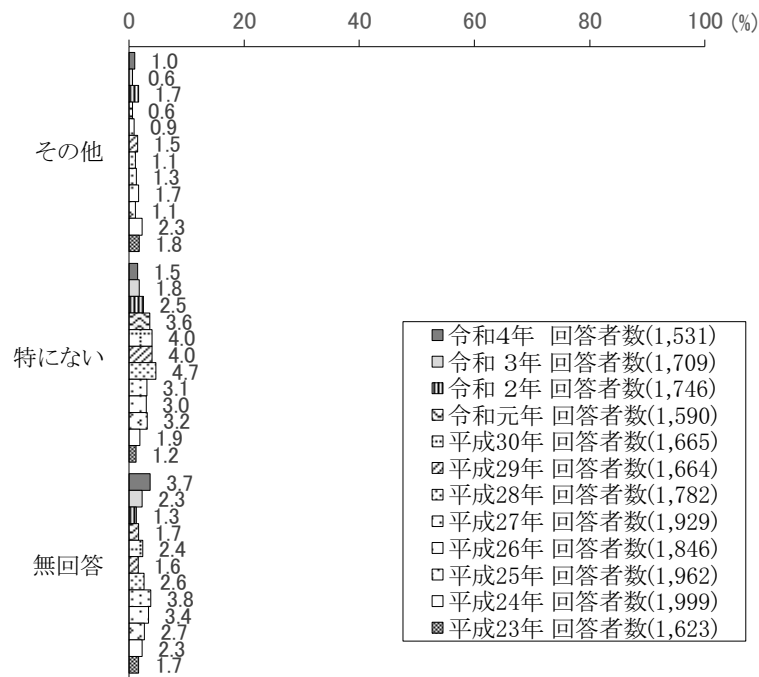
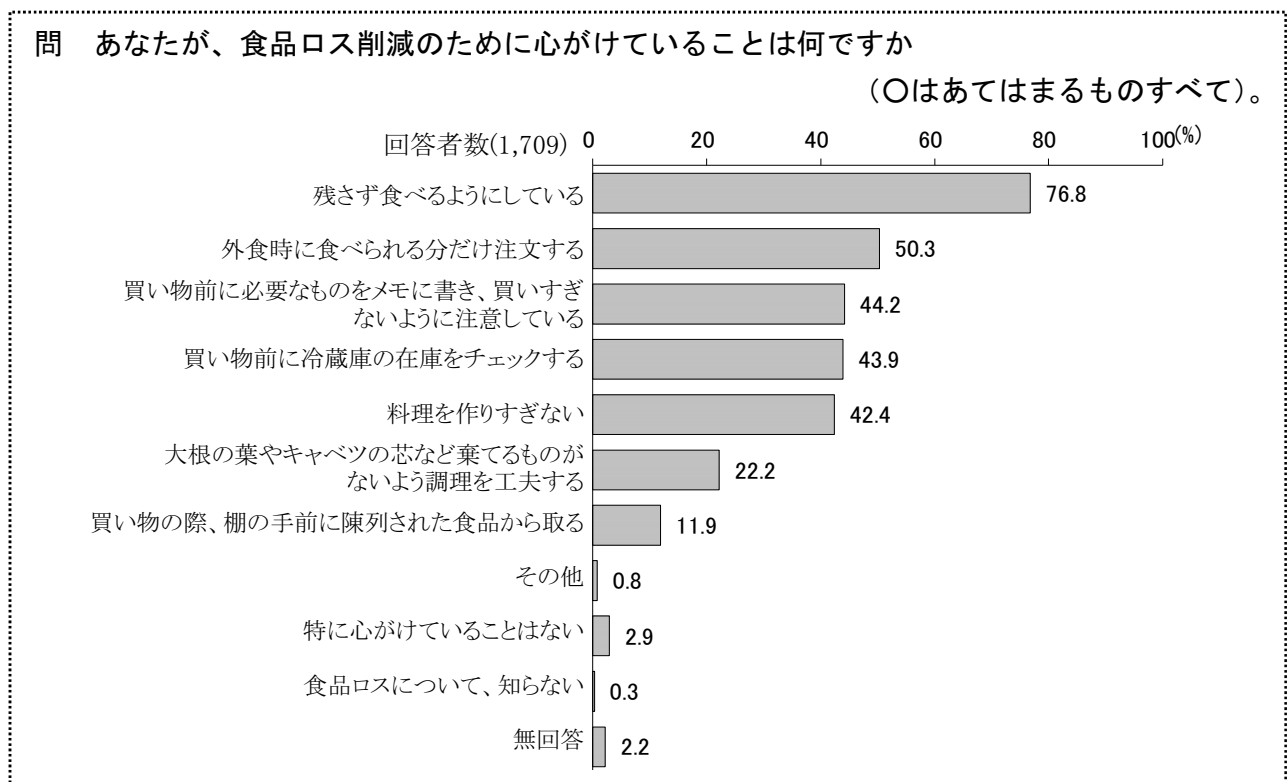


図8-1-1-③ 経年比較／環境のために心がけていること



- ※「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」は、平成25年度新設。
- ※「家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある」は令和元年度新設。
- ※「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」と「自然環境を大切にすることを心がけている」は令和3年調査新設。
- ※「外食時に食べられる分だけ注文する」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」、「買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る」の4項目は令和3年度まで「食品ロス削減のために心がけていること」についての設問で聴いていたが、今回の令和4年調査で本設問に統合。

参考／（令和3年度）食品ロス削減のために心がけていること

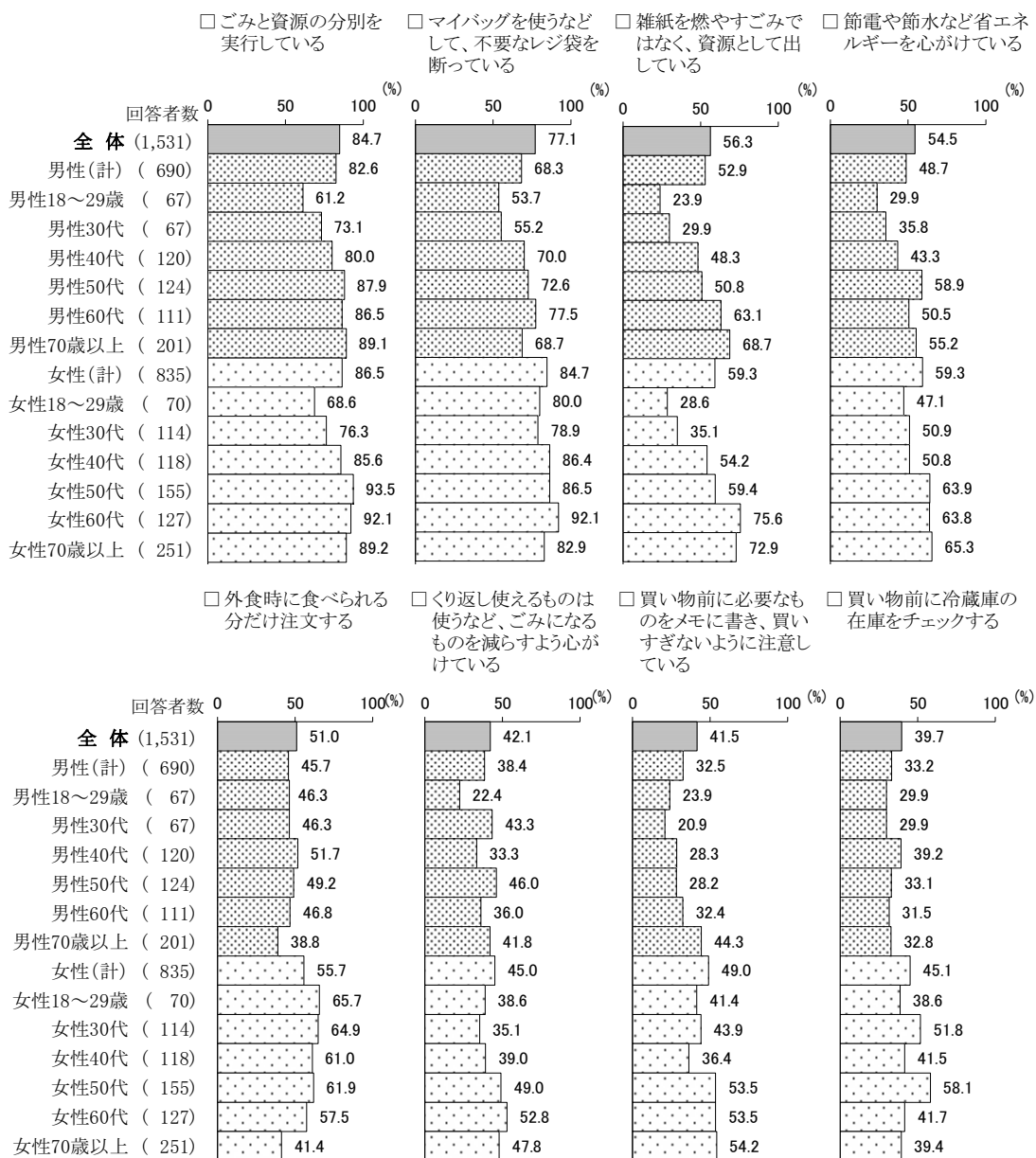


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境のために心がけていること（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、特に差が大きい項目は、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（女性49.0%・男性32.5%）で16.5ポイント、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（女性84.7%・男性68.3%）で16.4ポイントとなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、上位4項目については男女ともおおむね50代以上で割合が高く、30代以下で割合が低くなっている。特にその傾向が顕著なのが、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」は男性の30代以下が2割台で60代以上が6割台、女性の30代以下が3割弱から3割台半ばで、60代以上が7割台となっている。「ごみと資源の分別を実行している」は、女性の50代が9割台半ばで最も高く、男性の18～29歳が6割強で最も低くなっている。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は、女性の60代が9割強で最も高く、男性の18～29歳が5割台半ばで最も低くなっている。逆に、「外食時に食べられる分だけ注文する」では、女性の30代以下が6割台半ばで高く、男性の70歳以上と女性の70歳以上が4割前後で低くなっている。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること／上位8項目



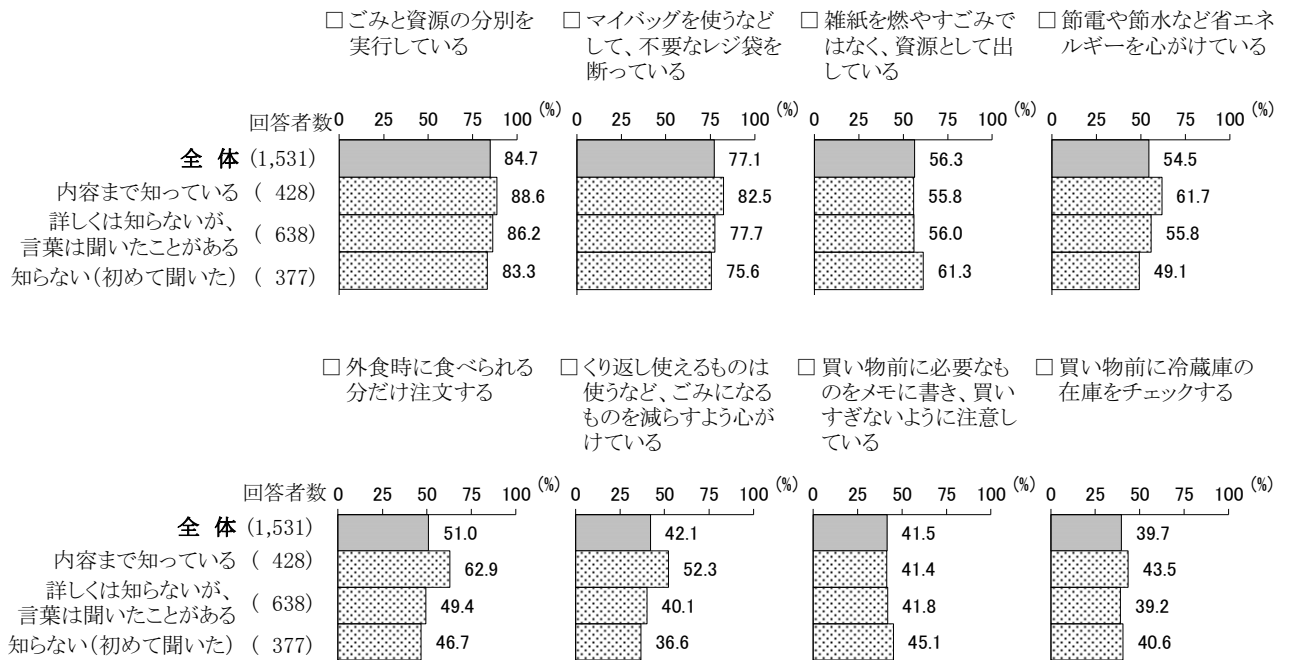
ウ クロス集計・SDGs認知度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

(ア)「環境のために心がけていること」の上位8項目中5項目でSDGsの認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、SDGsについて「内容まで知っている」－「知らない(初めて聞いた)」のポイントが大きい順に並べると以下のとおりとなっている。

- ①「外食時に食べられる分だけ注文する」(16.2ポイント)
- ②「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」(15.7ポイント)
- ③「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(12.6ポイント)
- ④「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(6.9ポイント)
- ⑤「ごみと資源の分別を実行している」(5.3ポイント)となっている。

(イ)「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」の3項目については、認知度合いとの相関関係はみられない。

図8-1-3 SDGs認知度別／環境のために心がけていること／上位8項目



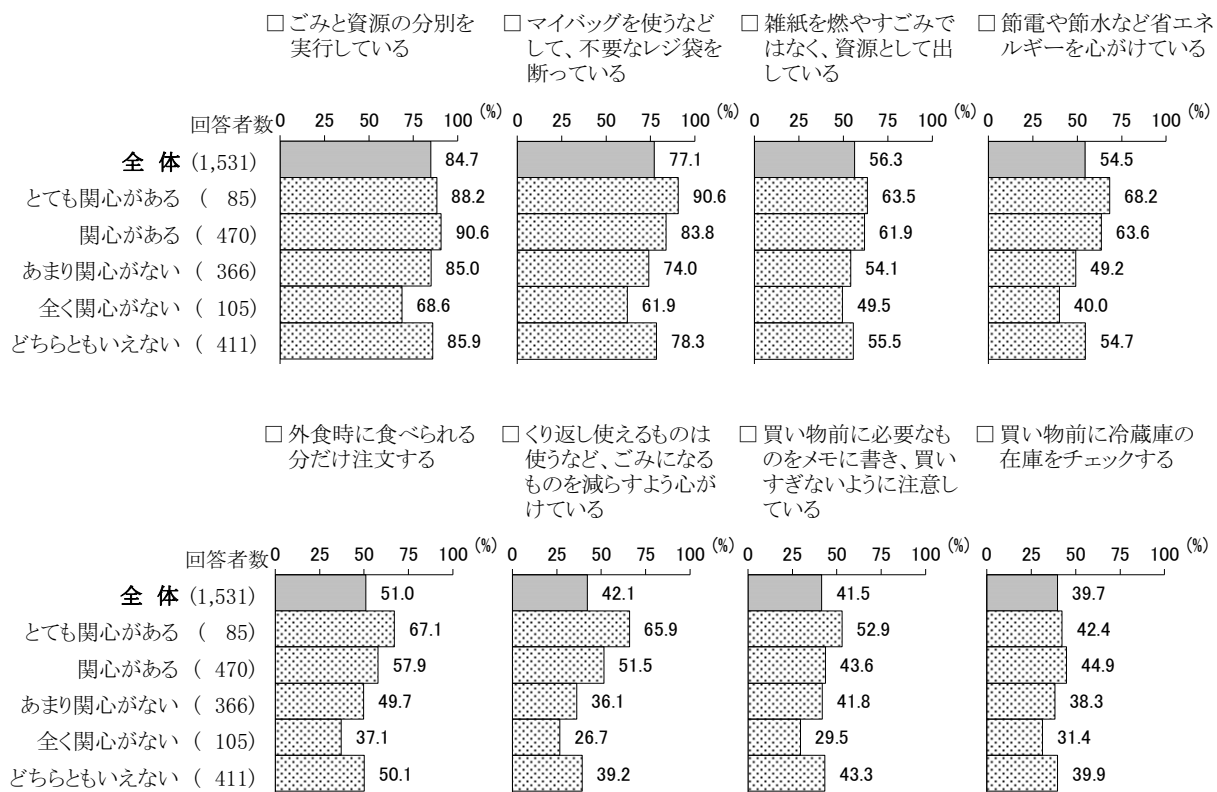
エ クロス集計・SDGs 関心度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目中6項目でSDGsの関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、「とても関心がある」－「全く関心がない」のポイントが大きい順に並べると、以下のとおりとなっている。

- ①「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」（39.2ポイント）
- ②「外食時に食べられる分だけ注文する」（30.0ポイント）
- ③「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（28.7ポイント）
- ④「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（28.2ポイント）
- ⑤「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（23.4ポイント）
- ⑥「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」（14.0ポイント）

（イ）「ごみと資源の分別を実行している」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」の2項目についてもおおむね比例関係の傾向があるものの、2項目とも「とても関心がある」が「関心がある」より割合がわずかに低くなっている。

図8-1-4 SDGs 関心度別／環境のために心がけていること／上位8項目



(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

問38 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動(※)していますか
(○は1つだけ)。

※ 問37(1から8)で示された内容のことです。

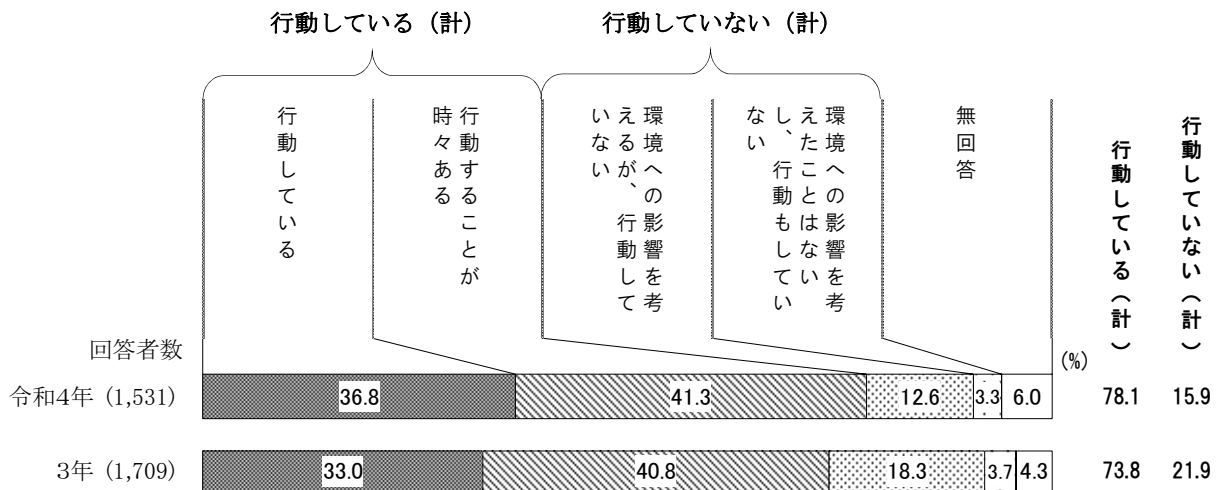
■ 【行動している】が7割台半ばを超えて、前回調査から4.3ポイント増加

ア 単純集計・前回調査比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 環境への影響を考えた日頃からの行動状況は、「行動することが時々ある」が41.3%で最も高く、次いで、「行動している」で36.8%となり、これらを合わせた【行動している】は7割台半ばを超えている。一方、「環境への影響を考えるが、行動していない」(12.6%)と「環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない」(3.3%)を合わせた【行動していない】は1割台半ばとなっている。

(イ) 本設問を開始した前回調査と比較すると、【行動している】(前回調査73.8%)が4.3ポイント増加し、【行動していない】(前回調査21.9%)が6.0ポイント減少している。

図8-2-1 前回調査比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

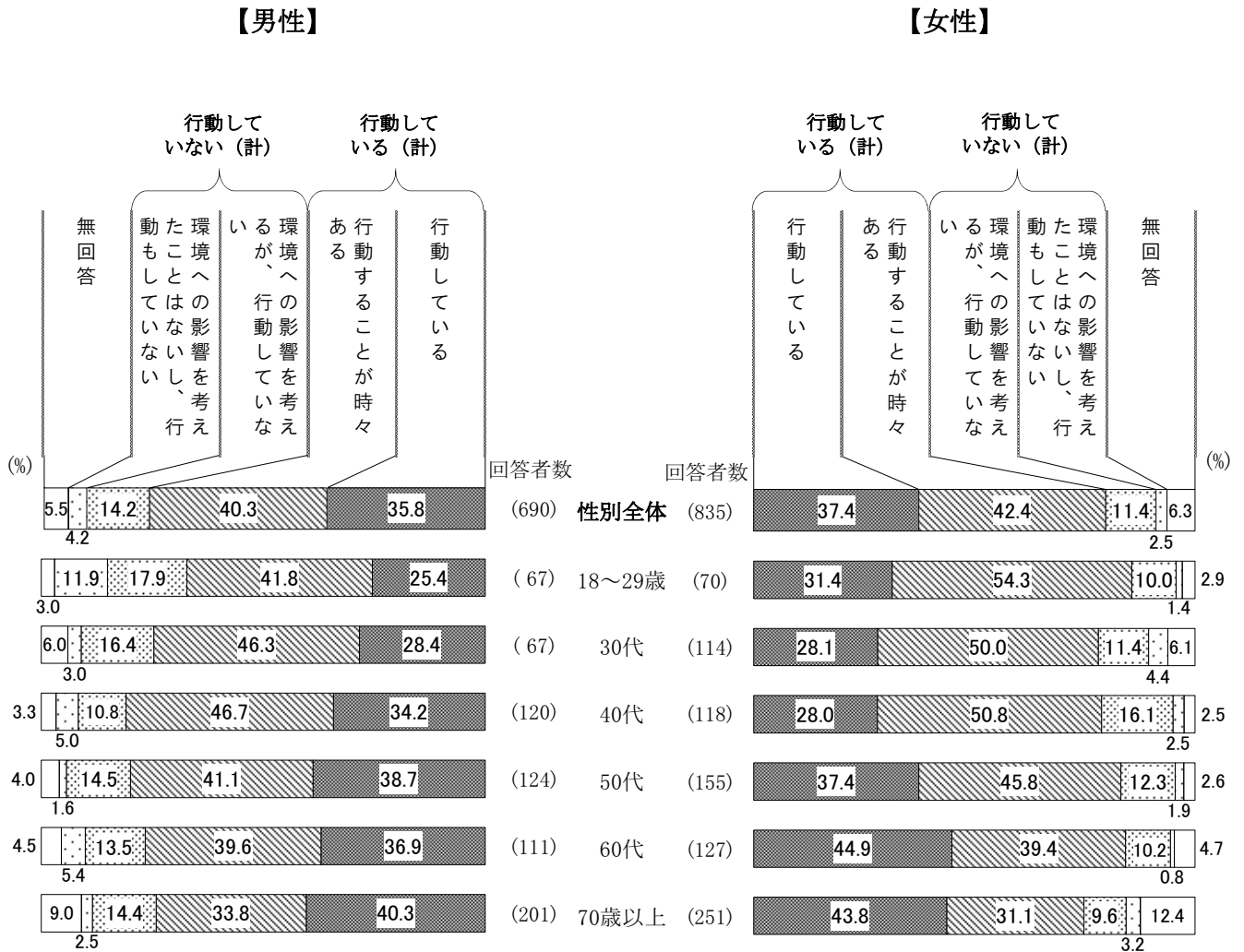


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 性別でみると、【行動している】は女性（79.8%）の方が男性（76.1%）より3.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【行動している】は女性の18～29歳で85.7%と最も高く、次いで、女性の60代が84.3%で続いている。一方、男性の18～29歳で67.2%と最も低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



(3) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したいと思う活動

問39 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

■ 活動実績は、コロナ禍の影響が続き「特に参加していない・特にない」が5割強で変わらず

ア 単純集計・経年比較／この1年間に参加した活動

(ア) この1年間の参加状況は、「特に参加していない・特にない」が51.0%となっている。

(イ) 参加した活動を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(18.0%)

②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(15.1%)

(ウ) 新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベント中止・自粛の影響が続いており、「特に参加していない・特にない」が前回調査同様5割超となっている。

(エ) 前回調査と比較して、自宅での活動が可能な「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が微増している。

(オ) イベント等のオンラインでの開催や施設での開催に係る制限の緩和も影響してか、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(前年調査9.9%)が5.2ポイント増加している。

図8-3-1-① 経年比較／この1年間に参加した活動

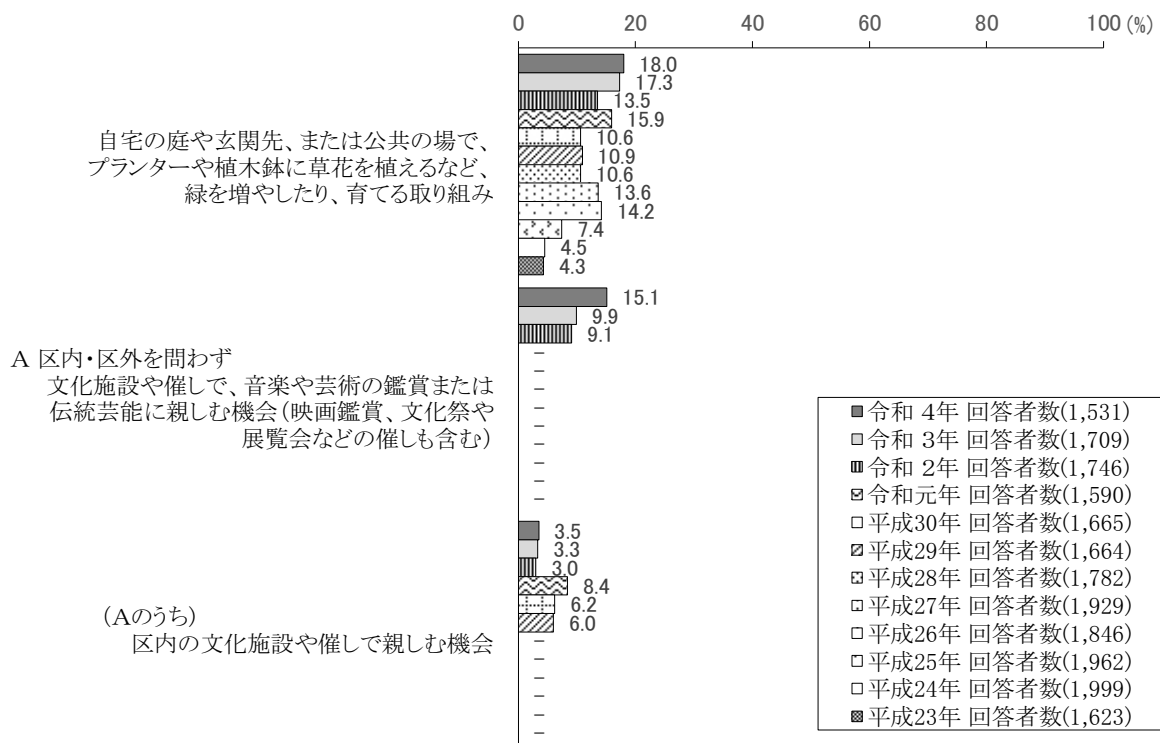
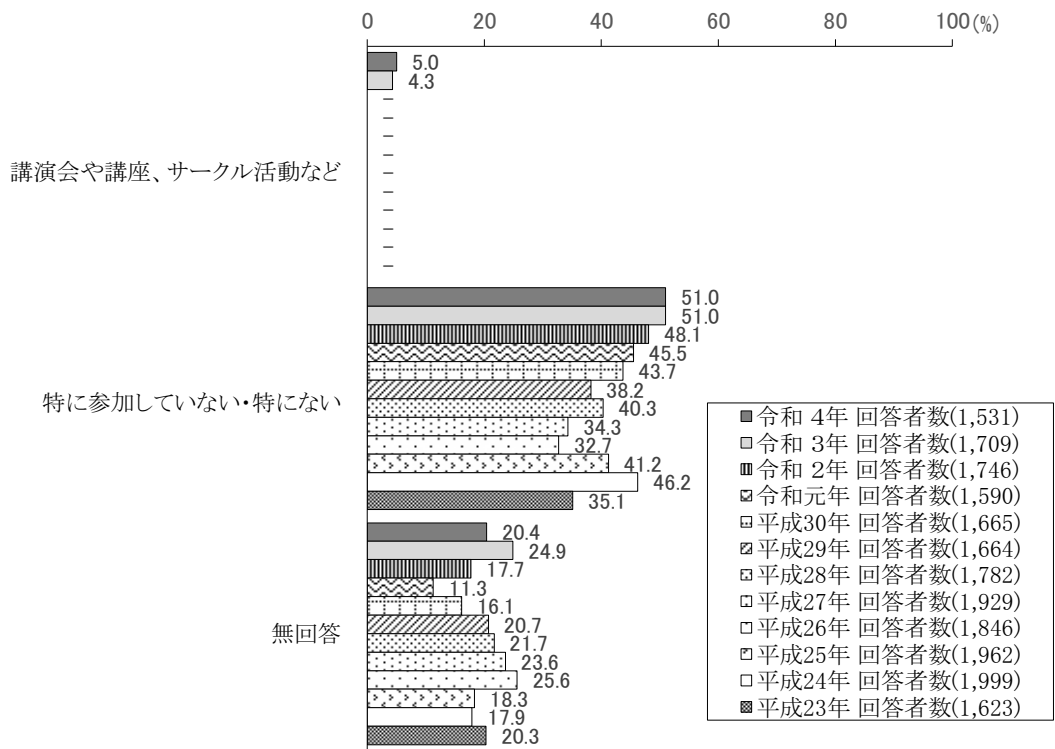


図8-3-1-② 経年比較／この1年間に参加した活動



※「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

※「A区内・区外を問わず文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、平成29年度からの新設項目。平成29～30年度は「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」だったが、令和元年度は、従来の選択肢の後に「(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」を加えた。さらに令和2～3年度は、選択肢冒頭の「区内の」を割愛し、副選択肢として「区内の文化施設や催しで親しむ機会」を設けた。さらに、今回の令和4年度で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えて副選択肢との関係を分かりやすくした。

※「講演会や講座、サークル活動など」は、前回の令和3年度の新設。

イ 単純集計・経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) 引き続き、または今後参加したいと思う活動は、「特に参加していない・特にない」が37.8%で最も高くなっている。

(イ) 引き続き、または今後参加したいと思う活動を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

① 「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(29.7%)

※ うち「区内の文化施設や催しで親しむ機会」(14.9%)が約半数を占めている。

② 「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(21.8%)

③ 「講演会や講座、サークル活動など」(15.0%)

(ウ) イベント等のオンラインでの開催や施設での開催に係る制限の緩和もあって、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(前年調査24.8%)が4.9ポイント増加しており、他の項目も軒並み微増している。

図8-3-2-① 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

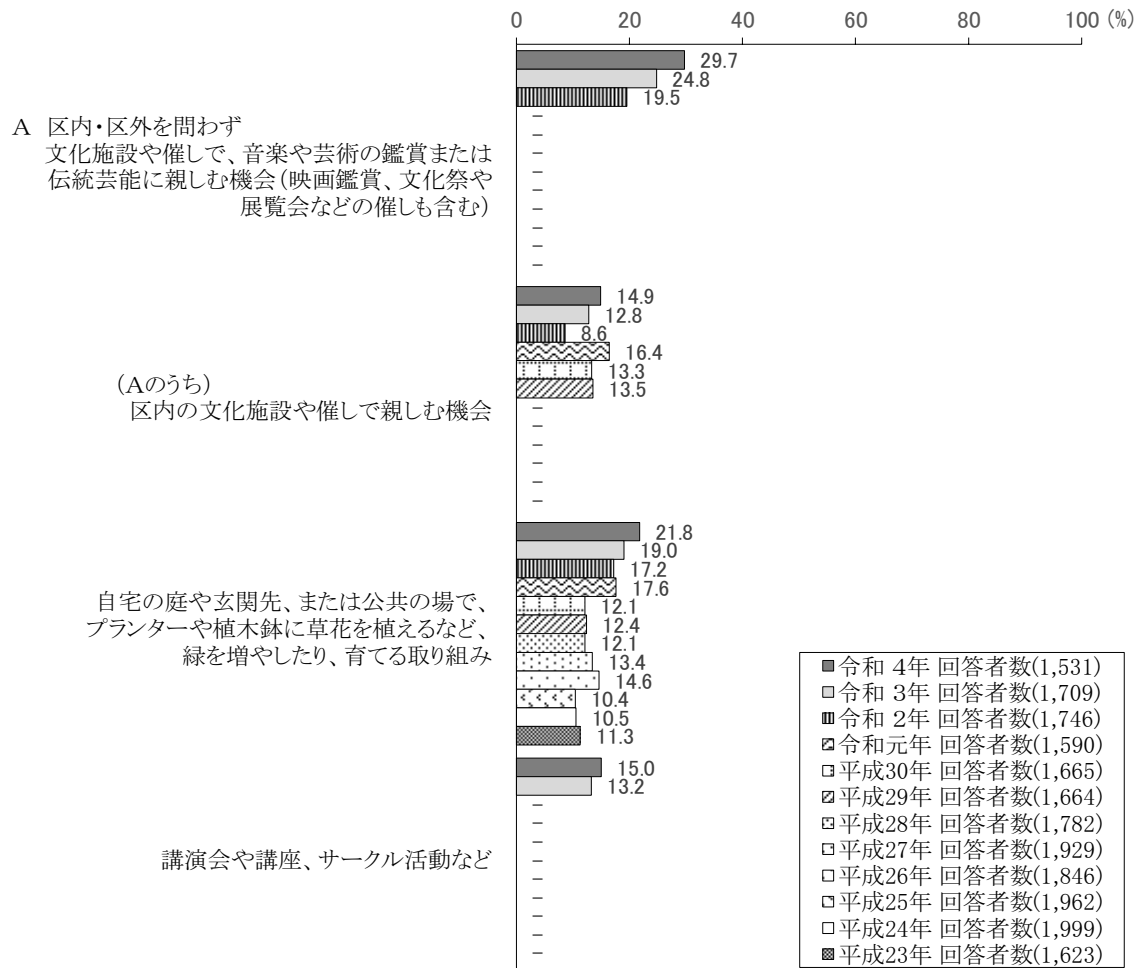
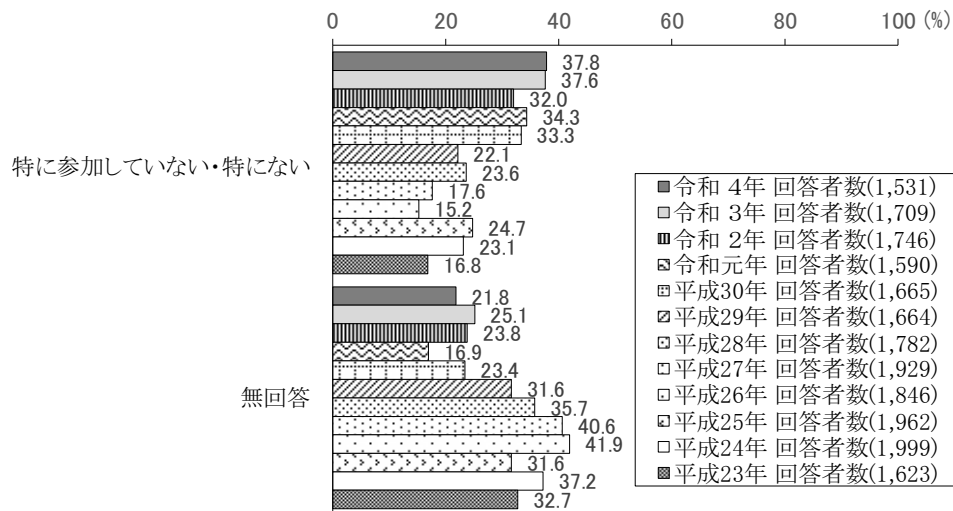


図8-3-2-② 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動



※「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

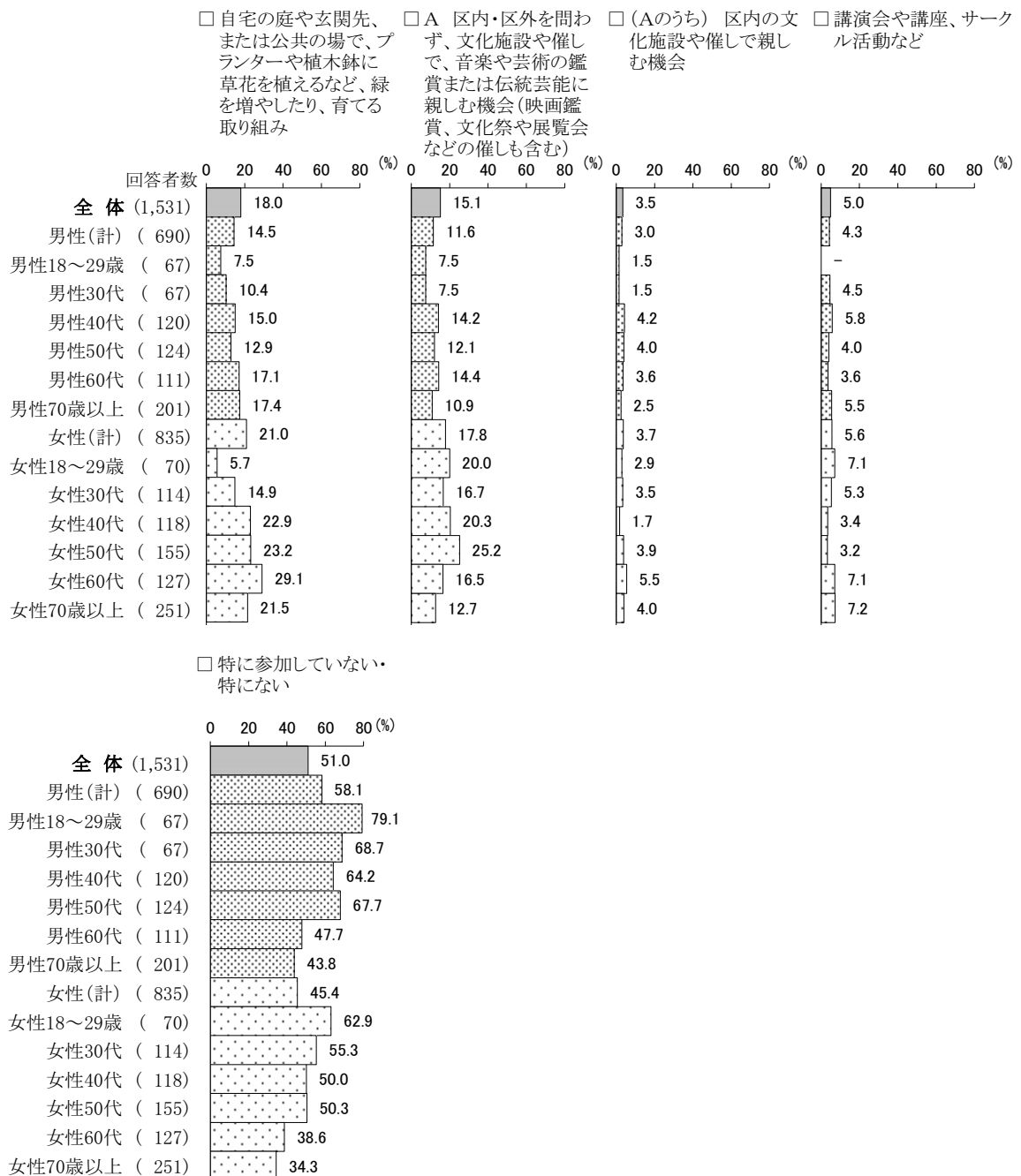
※「A区内・区外を問わず文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、平成29年度からの新設項目。平成29～30年度は「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」だったが、令和元年度は、従来の選択肢の後に「(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」を加えた。さらに令和2～3年度は、選択肢冒頭の「区内の」を割愛し、副選択肢として「区内の文化施設や催しで親しむ機会」を設けた。さらに、今回の令和4年度で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えて副選択肢との関係を分かりやすくした。

※「講演会や講座、サークル活動など」は、前回の令和3年度の新設。

ウ クロス集計・性別、性・年代別／この1年間に参加した活動

- (ア) 性別で見ると、「特に参加していない・特にない」は男性（58.1%）の方が女性（45.4%）より12.7ポイント高くなっている。
- (イ) 〈参加した活動〉について性別で見ると、全て女性の方が高くなっており、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性（21.0%）の方が男性（14.5%）より6.5ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別で見ると、「特に参加していない・特にない」は男女ともおおむね年代が下がるほど割合が高くなっており、男性の18～29歳で79.1%と最も高くなっている。「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の60代が約3割で最も高く、女性の18～29歳で5.7%と最も低くなっている。

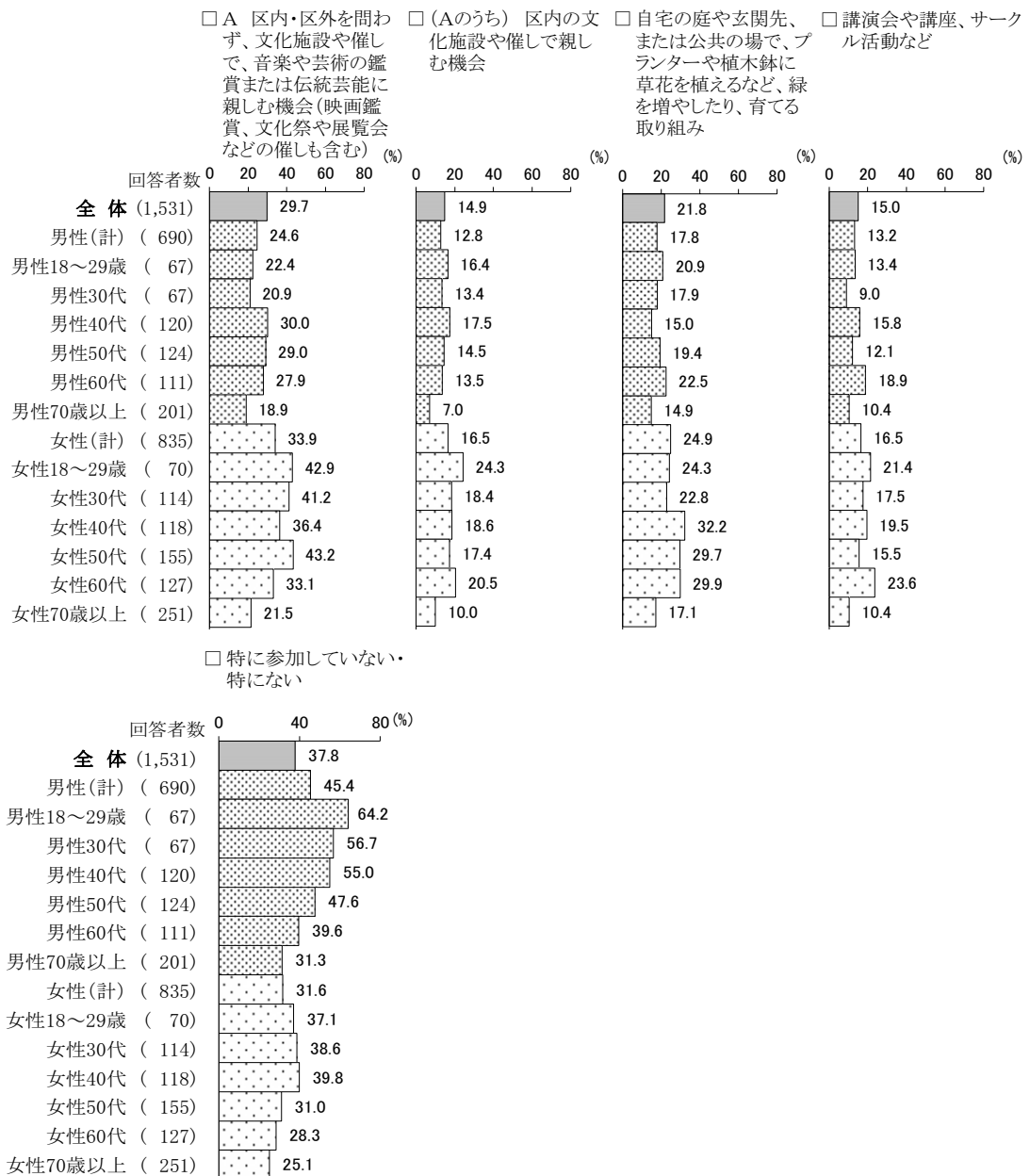
図8-3-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動



エ クロス集計・性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

- (ア) 性別で見ると、「特に参加していない・特にない」は男性(45.4%)の方が女性(31.6%)より13.8ポイント高くなっている。
- (イ) 〈引き続き、または今後参加したいと思う活動〉について性別で見ると、すべての項目で女性の方が男性より高く、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」は女性(33.9%)の方が男性(24.6%)より9.3ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別で見ると、「特に参加していない・特にない」は男性では年代が下がるほど割合が高くなり、男性の18～29歳で6割台半ばと最も高く、女性では40代が約4割で最も高くなっている。
- (エ) 活動について性・年代別で見ると、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」は女性の50代で4割台半ば近くと最も高く、男性の70歳以上で2割弱と最も低くなっている。

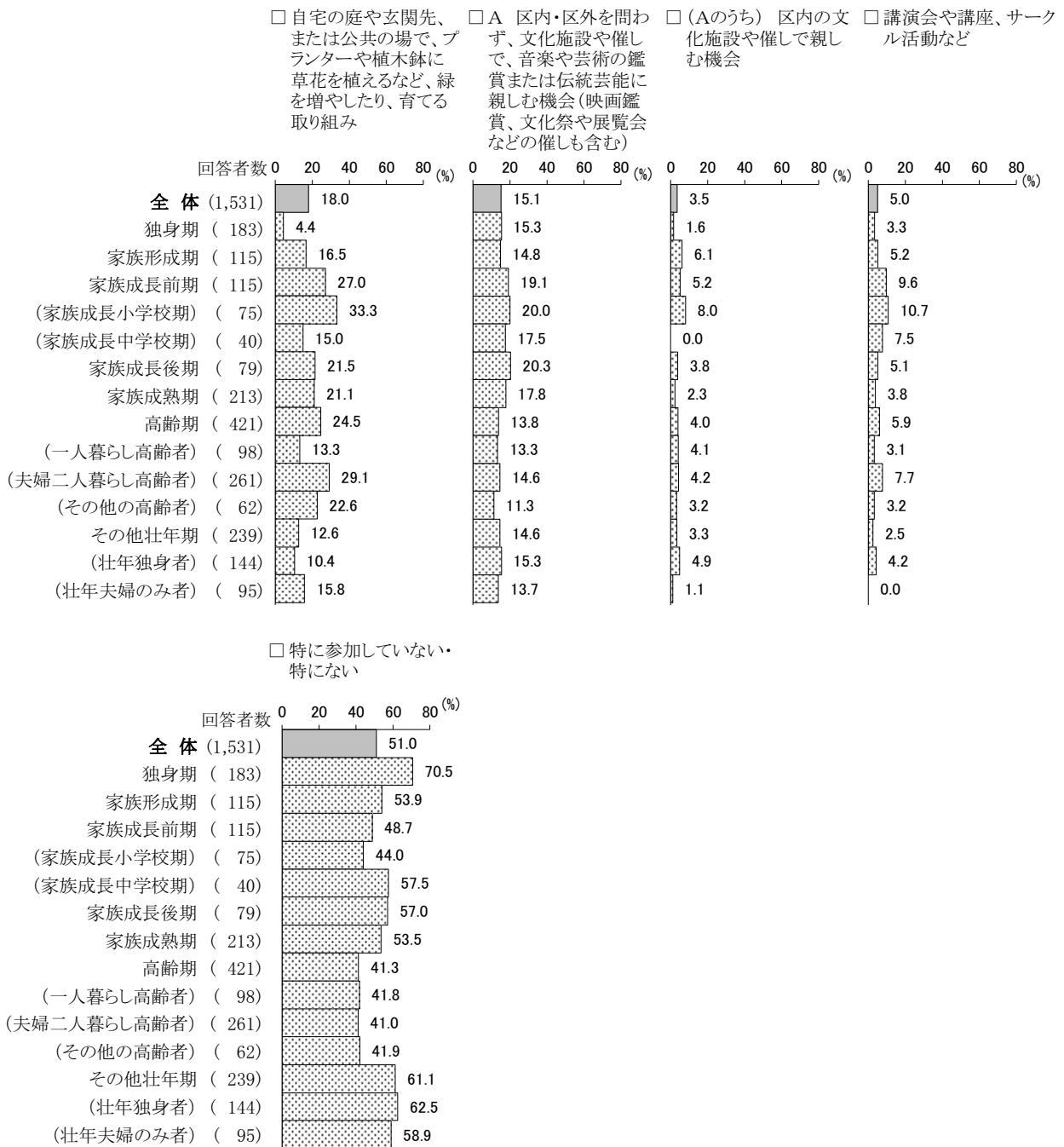
図8-3-4 性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動



オ クロス集計・ライフステージ別／この1年間に参加した活動

ライフステージ別にみると、「特に参加していない・特にない」は〈独身期〉が70.5%で最も高く、〈高齢期〉が41.3%で最も低くなっている。『参加した活動』では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長前期〉が27.0%で最も高く、〈独身期〉が4.4%で最も低くなっている。また、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成長後期〉が20.3%で最も高く、〈高齢期〉が13.8%で最も低くなっている。

図8-3-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動



カ クロス集計・ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

ライフステージ別にみると、「特に参加していない・特にない」は〈独身期〉が52.5%で最も高く、〈高齢期〉が32.3%で最も低くなっている。『引き続き、または参加したいと思う活動』では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成長前期〉が40.9%で最も高く、〈高齢期〉が23.5%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成熟期〉が31.0%で最も高く、〈家族成長後期〉が15.2%で最も低くなっている。

図8-3-6 ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

